

彙報（二〇二三年度）

† 教員関係

二〇二三年度新規兼任講師（哲学専攻設置科目）
胡婧兼任講師（担当科目「東洋思想史A」）
進藤浩司兼任講師（担当科目「老いと病いの哲学」）
中野愛理兼任講師（担当科目「戦争論・平和論」）

二〇二四年三月

木下頌子兼任講師退職
高江可奈子兼任講師退職
辻麻衣子兼任講師退職

† 学生関係

二〇二三年四月

第六期として三十九名入学。

二〇二三年九月

二名卒業

二〇二四年三月

三十一名卒業

† 卒業論文題目一覧

- ・なぜいかなる場合でも嘘をつくべきではないのかーカント『人倫の形而上学の基礎づけ』による考察ー
- ・なぜ道徳的に善く生きようとすることは幸福になることではなく、幸福であるに値することなのかーカント『道徳形而上学の基礎づけ』の解釈ー
- ・世界を平和に導くための国家どうしの関係は連合制度であるべきかーカント『永遠平和のために』第二章第二確定条項の検討ー
- ・なぜ「神の死」と「永劫回帰」の思想が重要なのかーニーチェ『愉快的学問』125・341・342番における考察ー
- ・なぜ良心の呼び声は沈黙という状態において語るのかーハイデガー『存在と時間』における良心論の考察ー
- ・日常的な現存在による死への了解はなぜ非本来的なのかー

『存在と時間』における死の可能性の考察―

・ 共通世界はどのような場合に存続することができないのか
―アレント『人間の条件』 共通世界概念の考察―

・ 子どもの哲学において判断する力はいかにして向上させられるか―M・リップマン『探求の共同体 考えるための教室』 批判的思考にかかわって―

・ イスラームの騎士道精神―フトゥーワと武士道―

・ イスラーム教における過激性 ―過激思想の潮流とその抑制―

・ イスラーム過激主義の思想的源泉を探る

・ 宗教は自殺にどのような影響を及ぼすか―イスラーム教の「ジハード」と自殺の関連―

・ サイイド・クトゥブの思想に見る「イスラーム」の絶対性

・ 宗教における女性の存在

・ イスラーム教と女性差別―イスラーム教が女性差別的な宗教と見なされるのはなぜか―

・ イスラーム教における同性愛者の存在と聖典解釈の可能性
・ ヴェールを纏う選択

・ 大川周明と井筒俊彦のイスラーム研究における偏りから見出すことのできるオリエンタリズムについて

・ アルチュール・ド・ゴビノーの人種不平等論に対する批判的考察―スポーツと人種差別の解決について―

・ サッカーと人種差別―サッカーに人種差別を撲滅する力は

あるのか―

・ 情報技術の発展が引き起こす、ロラン・バルトにとっての「写真」の根源的な変容

・ 前期レヴィナス思想の「リズム」について

・ 森田療法とレヴィナスの関連性

・ 「死刑」の是非 その比較

・ 「真実の意味におけるinternationalの間柄」とはどういうことか―和辻哲郎の風土論・国家論からの考察―

・ 教育とは何か―プラトン『国家』第7巻第1章〜第4章―

・ ウイトゲンシュタインはアウグスティヌスの言葉をどのようにとらえているか―『哲学探究』第1節〜第4節―

・ 内村鑑三はキリスト教への信仰心と異教国への愛国心をどのように両立させていたか

・ 親鸞の思想における自己意識

・ 道元の初期思想における悟り ―悟りに繋がる行いは坐禅以外にあるか―

・ 「二所大神宮麗気記」の世界観―阿字・鑲字、天照・豊受を中心にして―

・ 山鹿素行における「義」と「利」の解釈について

・ 秦邦憲(博古)における共産主義社会実現への思想―第五次

・ 困窮から遵義会議までの思想的立場を巡って―

・ 〈語る〉と〈へさらす〉―場における思考を明らかにする言葉の哲学的分析

(順不同 卒業論文提出者数と卒業生数は一致しない)

✦ シンポジウム・講演会など

二〇二三年六月二十五日

シンポジウム「世界哲学とは何か…「東アジア哲学」研究の意義と展望」

登壇者…竹花洋佑氏・合田正人氏・森里武氏・石原悠子氏
明治大学駿河台キャンパスグローバルフロント四〇二一教室

二〇二三年六月二十七日

特別講演会:「Nietzsche's Eternal Return and Its Existential Promise」

講演者: Willow Verkerk氏

明治大学駿河台キャンパスアカデミーコモン三〇八E教室

二〇二三年七月二十七日

研究集会「G・ビースタのP4C批判とその行方―哲学プラクティスの現在への一視角」(主催 科研費(基盤研

究B)「哲学プラクティスと当事者研究の融合…マイノリティ当事者のための対話と支援の考察」代表…神戸大学 稲原美苗)

登壇者…堀越耀介氏、土屋陽介氏、後藤美乃理氏
明治大学和泉キャンパスリエゾン棟L1教室